

## 要旨

都市交通の多様性を考慮しつつ、都市活動水準の維持と環境負荷の抑制の間に存在するジレンマを解消させるためには、1992年にWBCSDが提案した環境効率性という概念が有効であると考えられる。本研究では、分析対象となる各都市の交通手段の特異性を捉えつつ、環境効率性の概念に基づいて各都市の交通エネルギー消費構造を評価することができる環境効率性モデルを開発する。モデルはDEA（データ包絡分析法）の一種である、コスト効率性モデルをもとに構築する。また、先進国・途上国を含む世界46都市の4時点データに対して、開発モデルを適用し、世界各都市の都市交通システムのエネルギー消費構造の評価を行う。